勇躍・南の戰線へ

日赤海軍部隊從軍看護婦出發

日夜血みどろな決戰のつゞく南方戰域の第一線へ傷つき或は惡疫に横だはるへわが陸海將兵はなほも擊滅米英の燃ゆる鬪魂に一意再起を誓つてゐるが現地病院へ優しき看護の手をさしのべる半島初の海軍部隊從軍看護婦として南方前線へ派遣される日赤朝鮮本部野呂婦長以下廿一名の〝白衣の天使〟は五日午前一時五分京城驛頭を勇躍出發した、驛頭には高京畿道知事、古市京城府尹、丹羽京城師團軍醫部長、小塚陸軍病院長、海軍武官府西田少佐、佐々木日赤事務局長ほか府内日赤會員、各女學校、少年赤十字團員數百名が參列

古市府尹激勵挨拶に應へて野呂婦長は『元氣に行つて參ります』と決意を述べ揃ひの制服に眞紅の赤十字章が目にしみる、萬歲歡呼の中を三好日赤庶務部長に引率された全員は一路〇〇へ出發した【寫眞＝京城驛頭出發の日赤從軍看護婦】

激戰の海に輸送戰士の鬪魂

〝補給〟絶やして成るか

敵機何もの　機銃の猛訓練

【南太平洋戰線〇〇基地佐藤、山田同盟特派員】灼けつくやうな南太平洋の陽光を逞しい肉體にいつぱい浴びて、にじみ出る汗をぬぐひもせず、一挺の機關銃をじつと喰入るやうに見つめてゐる一團があつた、その人々の顏には必死の緊張が滿ちあふれ、その瞳は機關銃を操作する兵隊さんの手許を離れない、これは兵隊さんでない戰士の一團――いま最も緊要な輸送力を双肩に擔つて南太平洋の海域を乘り切らうとする漁船乘組船員〇〇名である、僅か〇〇トン未滿の漁船に一命を托して南太平洋戰線の輸送戰を勝ち抜かうとする海の勇士の熱心な機關銃操作の猛訓練であつた、三日間の猛訓練をうけたのちはいよいよ母船に乘組み南太平洋海域に挺身してゆくのである

敵アメリカの執拗な反攻にこの戰線は一面日米必死の輸送戰である、彼らは少しでも多くの彈丸や食糧を反攻正面第一線に運ばうと不屈の鬪魂に燃えたぎり、はるばる内地から萬里の波濤を越えてこの激戰場裡に馳せつけたのだ、正に海の肉迫挺身隊ともいへよう、いまこれら乘組員たちにその覺悟と米英擊滅の氣概を聽く

早川猛夫君（二八）＝千葉縣安房郡白濱町＝わたしは男ばかり五人兄弟の三男ですが、不幸一家から御奉公に出た者もなく口惜しく思つてゐたところ、わたしが國民學校卒業と同時に乘つてゐた〇〇丸が徴用されて國家の御役に立つことになりましたので、御奉公に立つのはこの時と早速志願しました、新聞でみる戰爭の激しさにじつとしてゐられなかつたわたしが幸ひにかうして第一線に來てしかも補給戰を鬪ふことが出來るのはこの上ない喜びです、頑張ります

山田茂吉君（三〇）＝石川縣河北郡七塚町＝大東亞戰爭勃發と同時に應召したわたしが不幸病氣のために歸還して以來家業の機業を續けてゐましたが、兄とともに大の男が漫然と戰況に一喜一憂してをられず、村の船が徴用されたのを機會に志願してこゝに來ました、一發でも多くの彈丸を第一線に送つてアメリカをやつつけね　ばと唯それだけでいつぱいです

木村正安君（三五）＝宮城縣桃生郡鹿淵村＝第二補充であつた私に召集もなく、アメリカの反攻に立つても居てもゐられない氣持であるとき、幸ひ少年の頃から親しんで來た舟がお役に立つといふので、御奉公はこれでと進んで志願して來ました、勝つも、負けるもこの一戰、私たちの補給戰は極めて重大であることを思ひきつと任務を達成したいと懸命です

山本清君（三七）＝鄕鶴市西吉原＝平素親しんだ船で支那事變にも出て中支戰線の海を乘り切つて來ましたが、南の第一線の補給戰の重大さに心を痛めてゐるとき幸ひ再びこの第一線に働くことを得て男子の本懷と喜んでゐます、補給戰は重大ですからうんと頑張つて必勝を期してゐます

高木馬次郎君（三一）＝靜岡縣加茂郡安良里村＝十六の歲から乘つて親しんだ船の御奉公に當選して第一線に働くことを志願したのですが〝願ひのかなつたときの嬉しさは言葉でいひ現はせませんでした、敵機何するものぞと習得した海技を發揮してアメリカをやつつけるまで働きます

前田利爲大將　一周忌祭

北ボルネオにおいて嚴修

【クチン五日同盟】初代ボルネオ方面軍最高指揮官として占領直後の北ボルネオにおいて軍令軍政兩方面にわたり挺身指揮中飛行機事故のため陣歿した故前田利爲大將の現地一周忌祭は五日午前十一時から北ボルネオ〇〇において山脇最高指揮官以下參列のもとに嚴修された

戰ふ森林

白茂高原現地報告(3)

【白茂高原にて藤本特派員發】冷えびえとする上栂川の大森林の瘴氣にうたれ再び林鐵で一キロほど引返し支線で約一キロ、別の溪谷に這入れば大谷土場があり幾くばかりの木材が積み重ねられてゐた『土場』といふのは伐採した木材を牛で曳き出し集積する處であり人夫達の小さな部落がある、延岩作業場管内には下院川、大谷、小博川、屈松の四ケ所に土場があり、その一つの土場がこゝである、大きな木材が次ぎ次ぎに重ねられその山が幾つも並び九千立方米の集積をなしてゐる

この木材の山は林鐵の貨車で一千八百貨車、金額に換算すれば幾くべし何んと四十萬圓であるこれを一日、卅輛の林鐵で運び出すとすれば二ケ月を要すことになるが人夫が病氣等して休む日數も考へれば實際に二ケ月半を要さなければ運びきれないといふ

こんな現象　はこゝばかりではない、白茂高原の各所の土場や林鐵沿線、延岩、楡坪等白茂線の沿線や吉惠線の沿線で隨所にみられるのである

白茂高原（城津營林署管內）の全部をみると去る四月現在四十六萬八千トンの材木が〝早く戰力化してくれ〟と夜泣きをしてゐる狀態である、そのうち八月廿日迄にやつと五萬四千トンを輸送してゐるが現在なほ四十一萬四千トンの彪大な木材がこの邊境の森林地帶で木材增産の聲をよそに皮肉にも大きなあくびをしてゐるのだ、山にはこんなに木材がある、と誇ぶべきか？なぜ運び出さぬか、と痛罵すべきか？詳しく考へることもなからう、伐採して山に積み重ねてゐるのみでは立木のまゝにしておく方がよろしい、勞力ないらず、腐りもせず、ぐんぐんと

太く伸びる　のみだ、國民學校の兒童でさへも『早く輸送すべし』と解答するであらう、この原因は何處にあるか、重要物資の輸送は洪水の如く輻輳する今日貨車が足りないとか人手が少いとか色んな理由はあらうがこの現實をこのまゝ放置してよい、といふ理由にはならないのだ

集積された木材のなかには十年も前に伐採したものや既に腐りかけてゐるやうなものもあるのだ、これがため城津營林署では山であくびをするこの木材を卅五萬立方米とみて輸送の五ケ年計畫を樹立し昨年まで十八萬立方米を伐採してゐたものを今年は八萬立方米に減じ一ケ年十五萬立方米を輸送するとして五年後に山の滯貨を片付けようと企圖してゐるのだ、この

輸送の隘路　のため十萬立方米といふ彪大な伐採能力を自ら減じ、集積されてゐる木材を整理しようとしてゐるわけである、この他大きな無駄を忍んで枕木十萬丁を現地で作り輸送の增強を圖つてゐる、この現實の面を凝視した時われわれは一體木材增産とは何かといふ大きな課題に逢着するのである、森林を伐りまくる、と叫ばれるのだ、では三割增産はといふ木材增産の概念は木端微塵に粉碎されるのだ、では三割增産を叫び展開してゐる木材增産の眞の意味はどこにあるか、一般の人々はほつきりとこの解答を求めなければならぬのだ、私は現地をみたこの目で木材增産とは『木材の輸送力增强』にある、といふ結論に達し、輸送の增强なくして木材の增産はあり得ない、と斷案を下すことが出來るのである、この意味でわれわれは更に更に輸送陣の奮起を望むと共にこれが協力支援を必要とするのだ

不急な旅行　や買出などの旅行を止め、出來得る限度までの客車を貨車にふりかへるやう協力しなければならぬ、私は吉州から吉惠線に乘つたが車內の大半の客は婦人であり白岩附近からの買出部隊である、と推察出來る者のみが乘つてゐた、中には車內で鮮魚等を出し賣買してゐる者もゐた、こんな連中が居ては輸送の增强は望まれないのだ

これら彪大な木材は、如何にして市場に出るか、こゝ森林鐵道では延岩に運ばれ白茂線に積替へられるが、終點である白茂線は白岩驛前の吉惠線に再び積み替へ、吉州に輸送されるのである、こゝで一部は北鮮製紙會社の工場に入りパルプとなりやがて人絹となつてわれわれの衣服になる

他の一部は　城津の貯木場に輸送され木造船に變つたり鑛材所に運ばれ土建用材となるのだ、また別に水路をとつて市場に出るものもある、流筏に利用な河岸で筏に組まれ西頭水を下り鴨綠江に出で會寧に出るのであるが、これは長くは望まれないのである、といふのは昭和廿二年に西頭水のダムが完成することになつてゐるので、その後には流筏は出來なくなり鐵道輸送一本となるのである

【寫眞＝延岩作業場前に集積された木材】

漢江通青年隊

傷つくや直に女子救護班

冠岳山々麓に實戰宛らの錬成

〝エイツ！〟〝ヤア〟と裂帛の氣合は鋭く冴して木銃は朝の大氣を衝いてサツと伸びる、爛々たるその眼、凛たるその口元、それは仇敵倒さずんば止まぬの鬪魂に溢る、突く、轉がる、血みどろの白兵戰を展開すれば、後部にはモンペ姿も甲斐々々しい女子救護班が待機する〝倒れた！〟と見るや〝スワ〟と急行、應急手當が手早く施されて擔架に乘せて勇ましく運ばれる――こゝ京城漢江通青年隊第一分隊二百名は五日拂曉冠岳山麓に集合、丸井龍山青年副隊長の指揮の下に男子班は銃劍術、射擊、女子班は救護訓練にと錬成の火花を散らして正午歡聲ののち晝食をとり、更に冠岳山麓をあとに健脚の步武も堂々と行軍、紫霞洞に到着し、そこで小憩ののち午後五時頃初秋の日曜の一日を天晴れ銃後青年たるの意氣を誇つて歸途についた【寫眞＝漢江通青年隊錬成會】

時局防空必携

朝鮮總督府

▽はしがき△　敵はたえず空襲の機を狙つてゐる、何時どこの陸上基地や航空母艦から來襲するかもわからない、廣い大空でなすべての敵機を捕へて一機も逃さず擊ち落すことは困難である、國民は屢々空襲を受けることを覺悟しなければならない

そこでどんな空襲にも役立つやう平素から準備をし、十分訓練を重ね、非常時に際しても、あわてたり混亂することなく、落ちついて御國を守り拔かねばならない

第一　どんな空襲を受けるか

激撃される空襲とはどんなものであらうか

一、空襲の目標　大都市が主な目標となることは勿論であるが、中小都市や戰爭遂行上必要な運輸交通、生産の要點等も空襲の目標となるであらう、なほ國民の戰意を挫くため無差別に爆擊することもあらう

二、空襲の時刻　明け方や月夜を利用することが多いであらう、なほ警報が發令されてゐないのに突然空襲があるかもわからない

三、空襲の程度　飛行機の性能はだんだんよくなり、數もどんどん殖えてゐる、今後は相當大規模の空襲をくり返し受ける虞が多い

四、投下彈　爆彈、燒夷彈を主とし毒瓦斯彈も使ふであらう、燒夷彈にはエレクトロン、油脂、黄燐等がある、多數の小型燒夷彈と燒夷力の大きな大型燒夷彈とを使用することもあり、更に爆彈を併用することもある、爆彈は要部を破壞するために大型のものも使用される、なほ中には落ちてから暫く經つた後或は數日間以上も經つて不意に爆發する時限爆彈もある、燒夷彈、爆彈の效力の概要は附表の通りである、なほ斯ふや細菌等を投下かけた謀略彈もある、その他、銃擊を行はないとは斷言出來ない、なほ宣傳ビラや燒夷カード　高射砲の彈片を拾ひたり、玩具や高年齡に見せ注意せねばならない

防空必勝の誓

一、私達は「御國を守る戰士」です、命を投げ出して持場を守ります

一、私達は必勝の信念を以つて最後まで戰ひ拔きます

一、私達は準備を完全にし、自信のつくまで訓練を積みます

一、私達は命令に服從し、勝手な行動を愼みます

一、私達は互に扶け合ひ、力を協せて防空に當ります

勤報隊を激勵

梅津軍司令官　遼陽を視察

【新京電話】滿洲國農産物の增産と各種産業の開發、國土建設に將兵にも劣らぬ活躍を續けてゐる滿洲國勤報隊に對する國民感謝は張國務總理、各部大臣の現地慰問激勵となつて無名建國戰士をいたく感激させてゐるが、梅津關東軍司令官は六日小尾大佐を帶同、遼陽洞畔に聖汗の勤報隊を親しく視察して一場の訓示を與へて激勵、更に奉天に到り軍事産業に挺身せる隊員を激勵した

故松原滑空士

けふ告別式

去る八月十五日から同廿八日まで吉州で行はれた夏季滑空訓練中腸閉塞を病ひ一日午後五時惜くも殉じた朝鮮國防航空團本部員二等滑空士故松原春吉（二一）氏の遺骨は遞信局航空課時友指導係長に抱かれ五日午後五時卅五分京城驛着列車で無言の歸還をなしたが、驛頭には下條遞信局航空課長、森航空官をはじめ朝鮮國防航空團滑空部員約二百名、親戚等多數が出迎へた遺骨は府內本町海光寺に安置されたが朝鮮國防航空團では團葬として六日午後五時から海光寺で告別式を執行する

工場で働く

東條光枝さん

勤勞奉仕に敢然、良家の十人組

【東京電話】『血戰下の日本女子青年はもつと積極的に勤勞作業に協力しませう』との決意も力強く東條首相令孃光枝さん（二〇）ほか九名の良家の令孃達が勤勞奉仕に新しい創意と工夫さへ加へて『女子徴用令いつでも來い』の賴母しい意氣を生産戰上に昂揚させた、血戰下お國のために一身を顧みる暇もない父首相の敢鬪振りを目の邊りに見、また敵米英の女子青年達が敵ながらも積極的に增産戰線に馳せ參じてゐるのを聞いた光枝さんは日本の良家の子女が思ひ切つて勤勞に赴く機會が與へられぬのを遺憾に思ひお母さんの勝子夫人に『どこか適當なところで自分もお役に立ちたい』との意向を洩してゐたが偶々日婦理事洗足高女校長前田若尾女史の斡旋で血戰下立派な婦人としての敎養、修養の勉強も怠らず同時に勤勞戰線の第一線に立つといふ建前から一週間のうち日曜を除いて三日間は家にあつて家庭婦人の修養をなし、殘りの三日間工場に行くといふ新しいやり方をとり、令妹喜枝さん（一）のほか會社重役などの令孃達十名（何れも高女卒）が勤勞報國隊を作り東京・原藤倉航空工業に就職、七月一日から五名宛二班に分れ一班は月水金、他は火木土として父の名が出て折角の勤勞作業に圓滑を缺いてはとの美しい思ひやりから幽欄の假名を用ひる光枝さんを陣頭に全員が全く女子工員と同じ服裝、同じ待遇で酷暑の下朝は七時から夜は六時まで女子としては稍過酷に近い程の勞働條件をものともせず立派に働き拔き勤勞女子戰士としても貴重な汗の體驗を身につけつゝ一人の病欠もなく一ケ月の奉仕を終つたのであつた、光枝さん初め十名の令孃が稱揚し勤勞を終へた頃南方から歸還した東條首相はこれはよい話だと令孃部隊を晩餐に招いてその健鬪を慰勞、一同もこれに感激、さらに今後の努力を首相の前に誓つたといふ、なほこの十人の令孃に藤倉航空工業から贈られた勤勞報酬はそのまゝそつくり洗足高女勤勞報國隊に寄附され一層關係者を感激させたのだつた

厚生音樂會

けふ府民館で

銃後增産に總力結集をみる秋、職場の慰安により明日への戰力增强をはかる厚生施設については當局の絶大な苦心と努力が拂はれてゐるがとりわけ厚生音樂の普及には最も大きい期待がかけられてゐる兵站基地半島の戰時文化の重要性に鑑み朝鮮商工會議所主催、本社後援の『厚生音樂會』は我が樂壇の雄奥田良三氏出演の下に愈々今六日及び七日府民館大講堂で開催する

會議所理事田村浩氏の挨拶に始まるが〝出征兵士を送る歌〟〝露營の歌〟他六曲の愛國歌、軍歌集や二重奏〝荒城の月〟など〝戰ふ日本音樂〟の粹を並べてゐる、五日本社來訪の奥田良三氏は語る

厚生音樂の向上發展のため微力を致してゐますが勤勞生活者の檢討が行はれた時代もない、生産能率に飛躍的な數字を示すためには色々な厚生施設を必要とするが厚生音樂は中でも最大の效用を果してゐる、我々の微力が半島音樂界の爲に少しでも役入れて貰へれば大きい歡びです

短期錬成會

京城府東大門警防團大川團長以下百卅名は五日の第一日曜日を利用して恒例の短期錬成會を開催、全團員は午前九時銀輪を連ねて朝鮮神宮に參拜本社に立寄り全員を代表して大川團長が〝意義ある我等の錬成日を迎へて全員醵出し合つた僅かな金額ですが國防獻金に〟と廿三圓五十錢を寄託、再び銀輪を驅つて一路西大門から津寬寺へと前進、午後七時歸着した

「戰ふ日本」入選　ポスター授賞

京城延禧專門學校では朝鮮聯盟、本社の後援のもとに廣く全鮮男女中等學校生徒から戰ふ日本の感激を盛つたポスターを募集、先月卅一日に應募作品より嚴選のうへ五日午後五時から和信商會會議室で辛島延專校長、朴和信社長初め關係者多數列席の下に晴れの入選者賞狀賞品授與式を行ひ五名に對し夫々賞狀並に賞品を授與、佐藤審査員の作品講評あつて同五時半閉式した

厚生音樂會

奥田良三　演奏　田中（井林）七良　いけ子　三夫

九月六日・七日（午後七時）

於府民館　一圓三十五錢（税共）

主催　朝鮮商工會議所　後援　京城日報社

ラジオ（6日）

朝▲六・三〇［illegible］▲七・三〇［illegible］（レコード）一九・〇〇ヴアイオリン▲九・三〇［illegible］

晝▲〇・三〇浪花節（レコード）［illegible］

夜▲四・三〇（放）［illegible］並に其の特徴に就いて福田安樹▲［illegible］